

●意見

- ・全ての子ども達に農業とはどういうものなのかを感じてもらいたいので、小学校統合後も毎年1学年ずつ農業体験できればいいと思う。
- ・現在、高齢になってりんごの木の剪定ができないという農家が増えているが、若手農家は多くの剪定作業の協力は、不可能であるため対策を考えていかなければならない。各地域で剪定の経験がなくても手伝ってくれる人を募集し、剪定士が先頭に立って作業させていく取り組みが必要。また、剪定が必要な面積や剪定作業を手伝える人数、その人が請け負える面積を把握できれば、各高齢農家に割り振りしやすくなると思う。
- ・季節労働者をはじめとした域外労働力の確保、グリーンツーリズムを視野に入れておく必要がある。
- ・間山地区農村公園の近くにある桜の木の幹が大きくなりすぎていて、地域住民だけで管理するのが難しい。町の方にも木を切る手伝いをお願いしたい。また、素人が切ると怪我の心配があるので、業者にたのむ必要がある。
- ・道の駅つるた農産加工施設においてりんごジュースの他にトマトジュースなど製造を検討。
- ・統合小学校の西側駐車場の一部をジャガイモ畑と称し、農業体験等で活用する。学校や給食センターから近いので管理をしやすい。1.5反歩の畑があれば、子どもが100人規模でもこれまでと同じく農業体験ができる。
- ・学校給食応援隊は少人数であるため、学校給食に野菜を提供するのが難しい。野菜を集める場所があればいい。あるじゃで売り物になるものとならないものをわけ、学校給食へ提供する野菜を集めるのもいいのではないかと。また、他の人に声掛けできるネットワークを持った人が入会するのが理想。
- ・小学校統合にあたって、廃校になる学校はある程度耐震性がしっかりしているのでそのまま放置しておくのはもったいないと思う。
- ・富士見湖パーク売店奥の駐車場で農産物を売ればいいと思う。
- ・りんごを腐らせないようにするためあるじゃ施設内の施設内の温度調節のバランスをとっていただきたいです。
- ・秋にはあるじゃにりんごの木箱がたくさん並ぶが、西北青果から買い付けする前に会員に呼びかければもっと出荷してくれる人もいると思う。